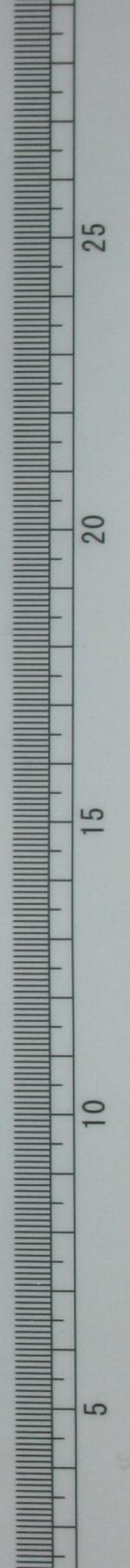




第四編
一

13
939
#16



113
939
1-40

朝夷巡嶋記第四編叙
朝夷巡嶋記
第四編
朝夷巡嶋
記
第四編叙

歌曲亭主人著
豐廣画

文金堂嗣梓

門外13
第939
卷2

朝夷巡嶋記第四編叙
憂中苦樂非真情也然有甚於真情好讀稗史小
說者亦與此相似其繙閱之際遇賢者薄命小人
傲倖才子不稱時尚美人歸于癡漢等之事則扼
腕浩嘆欷歔潤襟者有矣又遇奸邪發覺逆賊誅
伏賢才應於徵聘孝節表于門閭等之事則欣然
拊卷喟喟終日者有矣顧其事毫無與於我身而
意之所尚不能自禁者何也蓋人性稟之于天天
意好生而與善苟繙閱入其佳境得其情狀則沮
然無私意於是乎雖婦幼理義分明善惡邪正豁

如此天稟之性。使之然也。古之名人才子。為稗史小說。以勸善懲惡者。故有深意存焉。若夫拘執不通焉者。外稗史小說之不合于正史。以為誣世惑俗。與所云不知夢之為夢。而卜其吉凶悔吝。不當則外其夢曰無益於事者。何以異之。有或曰。周禮春官大卜掌三夢六夢之吉凶。周人取焉。古夢國史及左傳所書尤多。彼稗史小說。君子所不取也。子之言之悖。得非誣罔耶。余對之曰。史傳所載夢想事。出於當時。小說大約夢之與小說。其虛實相半。周雖有占夢之官。後世無傳其法者。以少驗也。

然一夕遇惡夢者。終日不樂。賢者因茲倍慎。眾人依之。此憚稗史之醒蒙昧也。與虛夢之驚癡人一般。昔人嘗有戲夢之喻。非但戲場之似夢。稗史小說亦可以喻夢。而夢有脩短。猶稗說有巧拙也。自非情景寫得至極之才。豈可得能使世俗感動焉哉。余性磊落。不嗜為人師。唯垂帷辭客。讀書綴文。以送半生耳。近又所著朝夷巡嶋記數編。亦欲做華胥南柯之類。其第四編五卷。昨既脫稿。因題數行於簡端。于時文政庚辰年。余月念二日也。

飯台

蓑笠漁隱



朝夷巡嶋記全傳中輯第四編總目錄

第二十一條 容進士柳營 思故人軍監

第二十二條 屯成六牛山 開發鎮守城

第二十三條 拔城義士功 攘魔良將弓

第二十四條 祛邪妙藥方 賊類大奸計

第二十五條 浮雲富貴草 濡衣第古鳥

第二十六條 陣營水醮盃 岐塹淨畚舟

第二十七條 珪浦曲道人 田居中女僧

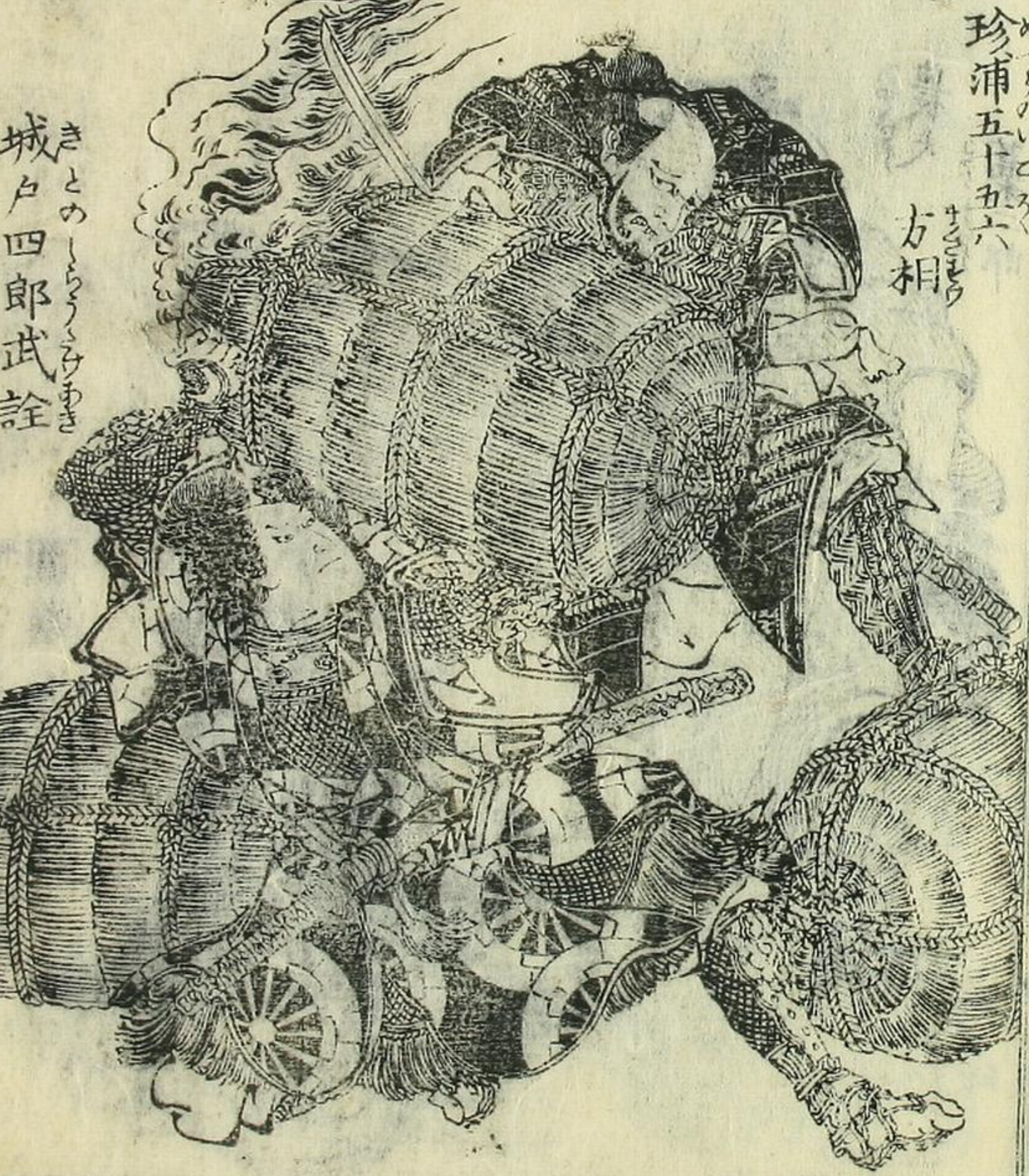
第二十八條 一二関攻鼓 四孝子怨刃

第二十九條 雲中鐵撮棒 腰间栗柄丸

第四十條 靈佛菜摘籠 豪傑葛藤索

本編五卷目錄終其第三十條以上總題
目見初編及第二第三編首卷續像之右

火牛未^ウ 放^ウ 山頭推^ス 車^ラ 火牛既^ス 縦^キ 大克不^ス 務^ラ 鷲齋主人



城戸四郎武詮

四四

明長四郎編卷一

物黨資^チ 水草太郎五^ノ 昌之^ノ 鳳雛裼^ス 竟^ス 琴嶺^ノ 琴嶺^ノ 跼犬吠又^ス 陰行^ス



水草太郎五

昌之

琴嶺

陰行

珍浦五十六

方相

草葉四郎卷一

三

志 匠

相從俱

憂

荒廟為

福

援主復

能言

守忍菴

豐 豐

農夫

藁二郎

圓通尼



奇計反

間

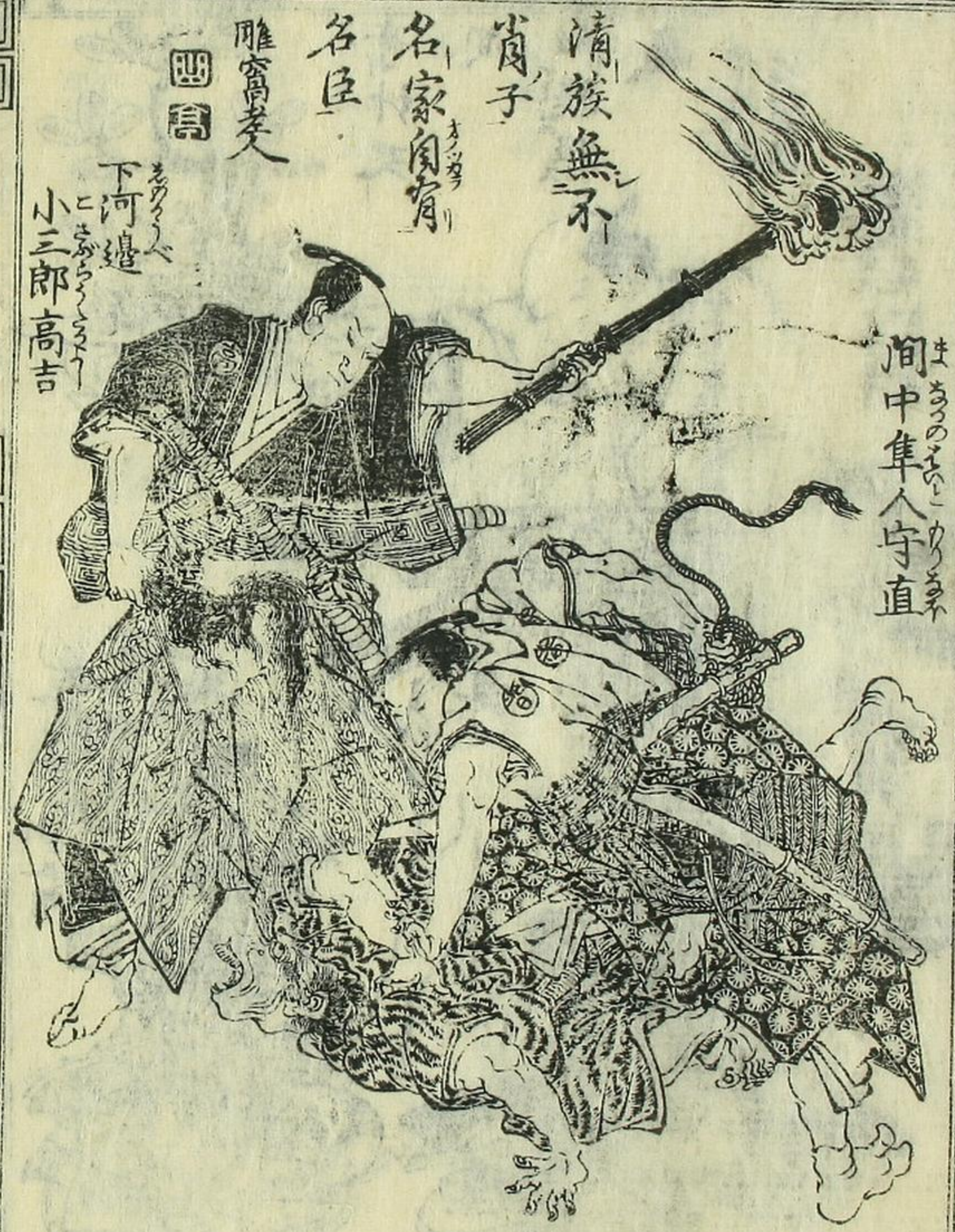
似癡非

癡

信天翁 題 圓

えびをのうせまろ
海老尾加世丸





生多のまのしりあま
間中隼人守直

清族無不

肖子

名家自肖

名臣

雕窠爰

四高

下河邊

小三郎高吉



是賊中賊

天罰奚遲

芳流舎

雙龍

鐵指矢藤五

重連

列傳姓名畧目追加

武臣

三善入道善信

秩父莊司重忠

佐味竺内高利

義士

城戸四郎武詮

水草太郎五昌之

隱逸

倍田二郎在義

一名浮槎道人

賊徒

跡犬吠又陰行

象子彈平太負持

惡別當訥愿

鶴夜又

鴉夜又

蛭富血九郎

通計一十二名

附てゆふこの編絶小義秀ホ之友の再會小至と轍む者官只當面小就く

これを推さざ。猶詳さるるのめんそ義時の邪正光仲の得失義邦の

黜陟義秀の是非ホこととるるを第五編小解分べ就中一段の脚色

次編小まより年々陸續刊行しとる全本小なきとるふのミ。姓名畧目追加終

朝夷巡嶋記全傳第四編卷之一

東都

曲亭主人編輯

進士を容る柳營

中輯第三十一

故人成思ふ軍監

建仁三年の春二月下旬北條相模太郎泰時ハ多賀藏人光仲ホを招

伴と只管路を急ぐ程小太田の莊を出たり第二日の巳の比及小鎌

倉ゆぞ各者ゆけるさの矢口を渡せし比より泰時既小歸著の注進その

實えあけし比この朝執權北條遠江守時政相模守義時評定衆大江

廣元同注所別當三善入道善信ホ出仕しと太郎達と侯候小泰時ハ

まづ光仲主従を準備の旅邸小留おれとむり柳營小参上歸著のう成

中入し祖父時政待とと。軀と公文所小召入ると。みづらう吉又乃茲を

時夏が謔言ふより義邦義秀本も一旦その罪人となりしが
 身の措処を随小武藏の太田は流浪く藍玉院に扶助せられ日駿州
 廣綱の商よりわりけし竊にその素姓を同究遂に六條藏人仲家の遺蹟
 駿州の養女を妻せ廻り賀藏人光仲と名生ませり又彼仲家の
 木曾義仲の兄あり頼政卿の養子なり又光仲の妻せり駿州の養女
 且見とぞえの仲家の女又光仲の老黨樋口二郎兼光が子ありと
 いふ既に夙縁ありぬる駿州より戸を叩くは豈逃れず壻おせやされ
 とも婚縁の家事あり漫小の行心く女をりく妻せりとも渠ありていと
 多し経任誅伐の大將小吹舉せんやその素姓はとまればかまれ仲
 家の遺蹟あり廣綱の女壻かまば任用せりべりぬの故某この義とぞふと
 相見してアそいへといふ時政果果と眼を睜り顔を反し且おれをいへむ
 忽地小膝を蹴と打く班小脱る齒を見し呵と冷笑ひ太郎は日來の拳
 動年歳少増く己ゆきも尚童でありける彼樋口兼光の朝敵木曾が
 股肱なり誅戮せられぬるやかれは件の光仲の朝敵の殘黨あり
 うや天地の反覆く彌勒の出世小値くよでも用ひるべりぬのゆゑぞそれ
 のとまらば光仲が媼子井平あるんこそ一旦これ仕へぬる渠如此この外
 ありて下野へ追遣りつ刀野時夏小隸たり小彼地より逐電せし是小
 嗚呼の癡者あり許さば死奴ありぬる縁ど吉見冠者等類ちまば不慮の
 大赦小あのを僥倖あるべし又駿州を誰惑しその壻小なる隨小ぬく
 名死名をつれく世を欺るる榮利と揣る大膽無敵の癡者あるをば
 まありぬるゆゑや又駿州ゆゑらぬる。彼奴を木曾の殘黨とぞおもふも
 女壻おせし野心ありといへばとぞその宵臆を推さざりし。かば非車小

斧鉞を授け軍兵を従せしむ。此度の大将小せしむるが任に得討せり。
 二張の弓を亦奪ひ取らば亦奪はるるを井平奴を追ひえせし由を
 遠慮の然るる。と席を拍り敦圀の義時へ死せしむ。父小對ひ大人の
 協ひせしむ。時政も亦いふと眼を反せばさき小樋口二郎兼光の義
 仲栗津野の戦に敗れし後降人小形りくを奪ひて之を介侍をその比都ゆく。
 誅せしむる判官の措忌又なる疎忽なるべし。や兼光が降参り真の
 降参りしむる。大姫君逝去の比頼朝の息女義高の内室なり。義高武藏
 早世をす。御追薦の放生小二位殿の御意とす。木曾氏の残黨はるか
 思救せしむる。高の義仲の御意とす。光仲ハ樋口二郎が子ありといふも
 朝敵残黨の残を以忌憐れハ道理小違へり。且六條藏人仲家ハ木曾義
 仲の兄とす。二位入道頼朝の養子とす。宇治河の戦ひ小その子藏人太
 郎と共小平家の大軍を殺戮せしむ。父子陣頭小戦殺せしむ。かきかこの
 後小家の小勸賞ありし。光仲既ハ仲家の遺蹟とす。めめめ
 經任追伐の大將小より立させしむ。相応ハかきかこの泰時討討とす
 とめめ柳營の小使とす。俱く来り光仲中をそ佐小追えしむ。世の
 嘲りせしむ。小せし再度の評議とす。と憚り色き諫へし。時政ハ強乃
 小見眉根とす。沈吟とす。彼光仲ハかきかこの井平よりし。こ
 小家の奴隷とす。東園小武士とす。を奪ひて鄙劣のめめを。追伐の
 大將小とす。世の胡慮とす。さあわとす。難とす。義時
 かくかく不愚按へし。異とす。昔前漢の霍去病ハ平陽侯曹壽が家突
 ちり。中孺といふ。陰子とす。去病ハ驃騎將軍小封せ

月 義時 編 卷 一

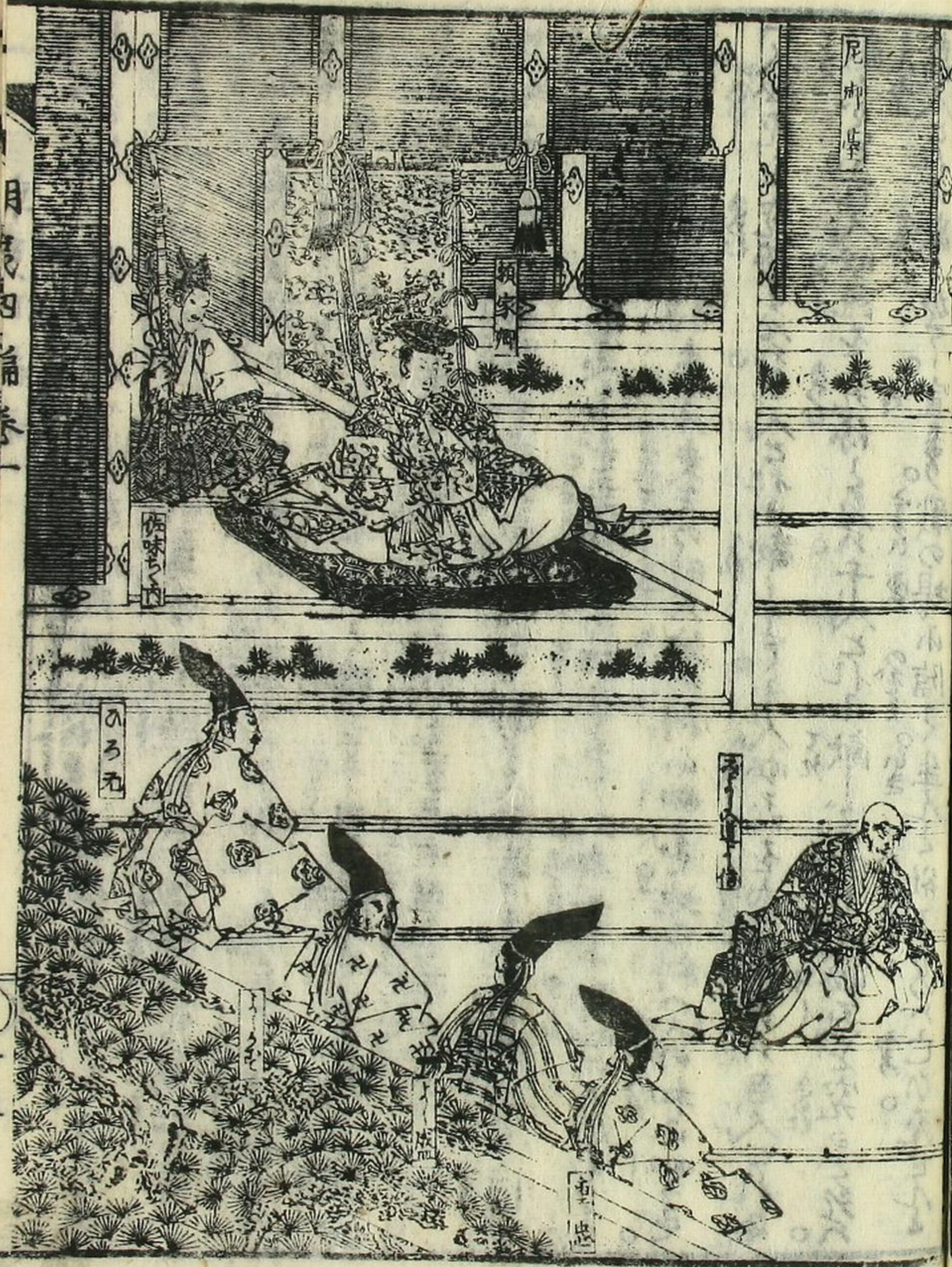
らるゝ凶奴を敵とて大功あり近々天朝源頼信朝臣へてめ搦家の家
 会より死なすれども冠位後四位上鎮守将軍左馬權頭小昇進し
 内昇殿を許されし武略神妙の聞えあり人を用ひ少實を取らざらん
 虚名小惑されんや且光仲ハ徳角の比しるる京鎌倉小浮浪らん
 らく大入小仕へんその願ひありあどか夫潘龍のいさし時を相違ひ日
 穴を蟬躰と俱ゆはるる終小池中の物小あもる集が大人小仕へ日
 その賢をさうさうと遠く下野へ追退ら今その賢をさうさうとこれを
 用ひあもる是愆を累多小ひつむやそめり家小仕へめが國
 家の大任小當らんや見よ家の譽あり他人の羨む所か辨東國にて
 名ももる武士を甲乙と擇用ひ賊を撃せり小再度の戦ひその
 利ある奥羽ハゆり擾騒んかて老功の勇士といふも又その暮小
 應どるも光仲ハこれと異に進く賊を敵とて功あり賢試招く乃道
 むひく武を將突の一樹さるべ又その戦ひ利あるもよまら御方の
 傷損小もも猜忌の臆念をぬく多の駿州の吹舉小任せあり
 安全の議さるべと言葉と盡し諫ふ廣元善信感嘆しく相州乃
 異見道理小稱へる愚老ホが思ふもこれ小まをりの何のらん直又の越を
 言上しく光仲を召す猶亦武畧を試みるその才ありめさるる任用
 わるまらうけと衆一同小勧め一時政ハ已とをほご遂小この議小
 隨の義時と共小泰時を召すや厄脚臺のめん方小まあやうの廣
 綱の吹舉光仲の義時ホが異見の越むらもあやえあハ厄脚
 臺より領なく小婦女子のめんあま人を知らぬのまらぬ相州の
 異見いと遷り公論とそいへば疾將軍家頼家小依えあはくその光仲と

らるゝ凶奴を敵とて大功あり近々天朝源頼信朝臣へてめ搦家の家
 会より死なすれども冠位後四位上鎮守将軍左馬權頭小昇進し
 内昇殿を許されし武略神妙の聞えあり人を用ひ少實を取らざらん
 虚名小惑されんや且光仲ハ徳角の比しるる京鎌倉小浮浪らん
 らく大入小仕へんその願ひありあどか夫潘龍のいさし時を相違ひ日
 穴を蟬躰と俱ゆはるる終小池中の物小あもる集が大人小仕へ日
 その賢をさうさうと遠く下野へ追退ら今その賢をさうさうとこれを
 用ひあもる是愆を累多小ひつむやそめり家小仕へめが國
 家の大任小當らんや見よ家の譽あり他人の羨む所か辨東國にて
 名ももる武士を甲乙と擇用ひ賊を撃せり小再度の戦ひその
 利ある奥羽ハゆり擾騒んかて老功の勇士といふも又その暮小
 應どるも光仲ハこれと異に進く賊を敵とて功あり賢試招く乃道
 むひく武を將突の一樹さるべ又その戦ひ利あるもよまら御方の
 傷損小もも猜忌の臆念をぬく多の駿州の吹舉小任せあり
 安全の議さるべと言葉と盡し諫ふ廣元善信感嘆しく相州乃
 異見道理小稱へる愚老ホが思ふもこれ小まをりの何のらん直又の越を
 言上しく光仲を召す猶亦武畧を試みるその才ありめさるる任用
 わるまらうけと衆一同小勧め一時政ハ已とをほご遂小この議小
 隨の義時と共小泰時を召すや厄脚臺のめん方小まあやうの廣
 綱の吹舉光仲の義時ホが異見の越むらもあやえあハ厄脚
 臺より領なく小婦女子のめんあま人を知らぬのまらぬ相州の
 異見いと遷り公論とそいへば疾將軍家頼家小依えあはくその光仲と

中ん用へるのまがらうく相計るをきこてと叮嚀ふ仰る時政義時
 うひまをく躬て將軍頼家卿の夏之趣を言上し明日賀藏入状
 召さるべしと定めり。この時頼家卿ハ日夜淫酒成まると政親もあむ
 或とた鷹鳥を放獸と狩らうと遊山玩水の爲小民の愁成物とせむの
 とた鷹と獸と雙陸小興を催して酒宴遊興の爲小國の費と首ごとまふ
 より奥六郡の賊乱いまで鎮れどもあふかき色もあふ又先仲もが
 る成せけとみづち擇用のんもあふもこれハ國の大事ハ執權北條一家ハ
 多く尼御臺の決断あり。この故小忠臣ハ遠ざけよと諫言の路塞り奸
 佞の時をゆるし諂諛の門を開けり。同話休題かくその次の日賀藏入光
 仲を召あうりて登營と間中隼人守直もそが後方ぬをばひる廣綱の
 名代るまがと見ゆる。執權北條親子ハあも大江三善の評定衆和田

畠山比企三浦の諸老臣又も管中小參會つ既あり頼家卿山鳩の間小
 出まもへハ尼御臺も亦光仲を御覽せんとも翠簾の裡ぬををり
 ちとそその夏之爲体整齊としく諸士禮服の色も秋の林と深き如く
 又烏帽子の高低は春の山の連る小似たり。高程小光仲ハ花田の素禰小
 掛烏帽子しく黄金作の小刀を佩進退としく作法を守りて間中隼人を
 後へ。泰時小導れく遙小平伏も程小泰時ハ謹くその姓名を披露せり
 當下問注所の別當三善入道各信豫く仰を稟さうけん斑と出く光仲小
 うち對ひ駿州ハ隱遁の義をのりて此度の參府と辞しまうり。和敷を
 薦まらうり。條聞食入とく野へあられが善信仰ふとく聊和敷小同ふ
 ことり。經任ハこのキ年来六郡を掠奪しく矢種兵糧小富りとゆり。數破
 ことと連るまが。對陣時日を累ぬるとたの御方ハ兵糧遂小竭ん是主客の

月夜の御成



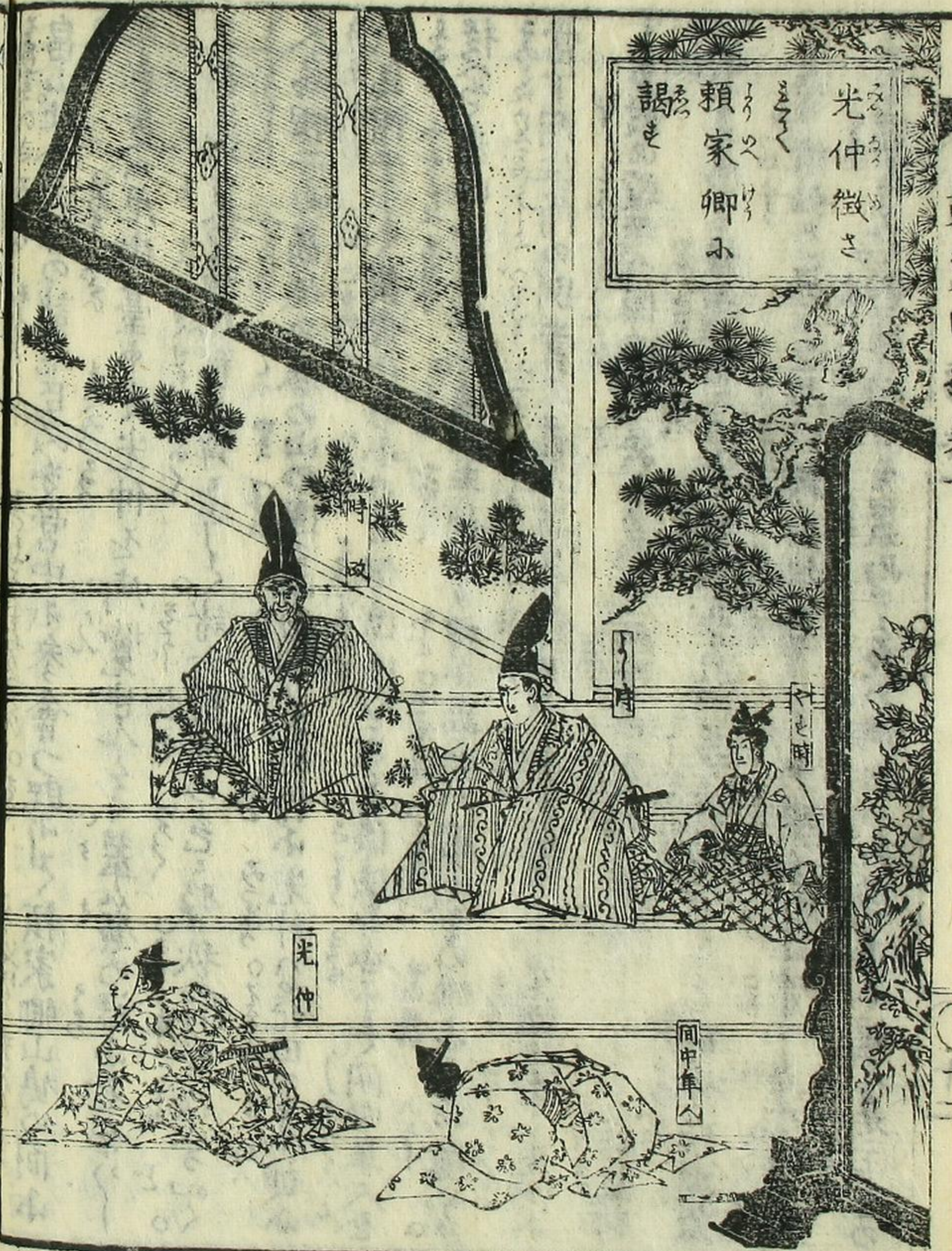
尾州屋

のろろ

松

光仲
微さ
頼家
御小
謁さ

草書日記



光仲

同中

勢ひかのづゝ然るゆゑに。故左典厩（足利後兼）の功ありしも。その小
 のまろかれば。彼經任の寔小鳥合の山賊まきども。悔りかた死（や）あり。
 和殿甚麼なる謀らるる軍慮の大意（や）あり。と向まき光仲袖（や）を
 合せさし謀を帷幄の中（や）めぐる。勝を千里小決（や）さるゆゑ。良將の
 とふあり。光仲のまき賊の強弱を見む。その地理を推究（や）ふ暇あり。
 唯居るまき勝敗を未然小訣（や）る。ゆゑや。あつまきと順をめて逆と
 討ふ克むといふと。あつまきと左典厩の功ありし。御方小野心のゆゑあり。
 軍略合期せれば。あつまき夫天の時の地の利小如き。地の利ハ人の和（や）小如き。
 一人必死を究係（や）とる。十人小敵（や）とる。十人必死を究係（や）とる。百人小敵（や）とる。
 敵（や）とる。百人必死を究係（や）とる。千人小敵（や）とる。千人必死を究（や）とる。とる。
 萬人とる。敵（や）とる。宜き。戦の場小臨（や）とる。生んと欲るゆゑ。亡（や）死せん。

欲まきの生く。兵と寔小凶器あり。この故小三軍小將（や）のゆゑの獨功を貪
 らむ。苦樂を士卒と俱（や）う。軍令を正（や）し。賞罰を明（や）め。よく死士と
 養ふあり。孫子の地形編（や）ふ。ゆゑ。率と視（や）と愛子の如く。故小僕（や）と
 死（や）ま。九地編（や）ふ。又云。三軍の衆を犯（や）と一人を使（や）つ。若く。こま（や）て
 亡地小投（や）と。然後（や）存（や）と。それを死地小陥（や）れ。然後（や）小生（や）と。ゆゑ。九兵と
 行の要。彼を知（や）。己を知（や）。必克彼を知（や）。尚己を（や）さ。れば。或ハ勝。或ハ
 負。彼をさ。己をさ。戦（や）ふ。毎小必負（や）く。是孫氏が誠（や）る。呀（や）め。攻伐の
 要領（や）あり。かれ。その軍畧（や）の今（や）こ。まき。謀（や）と。下（や）び。賊塞（や）小臨（や）と。
 その地理を考へ。屢賊兵を誘（や）と。その虚実を察（や）し。機小臨（や）と。亦（や）ま。心（や）と。
 短兵急小拉（や）と。經任幻術あり。ゆゑ。その（や）施（や）と。小暇（や）と。奇正
 每度小く。當（や）と。速く。賊柵を扱（や）と。彼が矢種（や）ハ。我有（や）あり。渠が兵糧の

月意日編巻一

某の即御方の資あり。と成りて其の兵糧の續きえんことを思ひさせたり。
 只經任が首を獲るの一日を速くえよとあつた。是併君の御威徳に
 依るのゆゑ。叨小才學を演るふあざむき尊向黙止せられたる。聊患
 意をやる。後之。過言ハ許さる。とあつた。答へ。善信入道にえ
 將軍御母子をなごめりて。大江和田島山の諸老臣のく耳を側。その
 宏論小感服。現廣綱の吹舉私情小あざむき經任追伐の大將。これ
 人ふや。後めあざむき。とあつた。えまうりける。そが中小時政ハ目を斜め。先
 仲を。とこんかうえんと半响むる。その人がうの美し。その辨論の爽やか。
 絶む。の井平。むき。を渠の。の向小習。詰かく。遅。れ。め。の。あ。ま。う。り。け。ん。
 寔小人の才なり。揣。か。か。た。め。の。え。ま。う。り。と。多。の。あ。ま。ふ。い。と。相。く。て。そ。の。り。の。ひ。
 知。り。て。も。ま。る。を。是。我。時。ハ。その。氣。色。を。察。す。廣。元。ハ。目。を。注。ま。れ。ば。廣。元。

今その意成ゆ。同列小會釋ら。各位何と。あまひ。藏人の才。その
 任小當より。萬幸ハ。其易く。一將ヲ。獲難。任用せ。る。は。其。の。故。り。な。り。
 ア上。れ。め。の。ゆゑ。義。盛。重。忠。ホ。辞。ひ。く。嘆。賞。し。彼。人。の。義。論。甚。し。し。
 駿州。こ。の。副。と。ま。る。功。成。ん。と。疑。ひ。す。薦。揚。勿。論。小。ゆ。衆。一。同。小。志。一。六。
 時。政。ハ。已。を。ゆ。む。躬。く。え。前。小。ま。り。の。衆。議。の。趣。を。執。達。し。且。奉。上。旨。
 あ。つ。て。退。を。光。仲。小。ち。對。ひ。前。駿。州。の。背。多。賀。藏。人。此。度。その。薦。小。
 因。て。即。進。士。小。擬。せ。れ。新。小。御。家。人。小。召。加。く。經。任。退。治。の大。將。小。御。使。り。
 駿。州。と。共。小。眞。州。へ。進。度。と。日。ま。る。功。を。奏。と。べ。これ。ゆ。り。武。藏。下。総。の
 守。護。御。家。人。小。別。小。御。教。書。を。あ。り。ア。ま。え。ん。を。軍。勢。催。促。し。引。
 領。し。て。度。向。せ。れ。但。上。光。仲。官。職。を。う。り。大。軍。小。將。と。東。國。の。武。士
 傳。り。て。その。軍。令。小。傳。小。の。傳。り。て。今。假。小。外。後。六。位。上。小。叙。藏。人。と。

ありしに叙爵のるは使者より京都へ執奏せしむるに
 存まじしと最命を傳へ又守直を召近し此度藏人をりて
 治の大將小みんとり立ちしはとて駿州の之をよき小依
 かねば駿州これ副とて大功をよきとて台命既ふかくの如
 王公告ふとひとくこれ彼小のこを先仲守直唯とて恩命と拜
 謝せよと當下光仲へ席を避く額を著れ某草莽浮浪の身とて不
 慮小御家人小召加ら刺此度の大任を奉王の毫末の功ありと
 過分の封位と貸下さ條莫大の榮ありと恩命今更辭しを
 小由る。あるは大馬の旁を彈く日あるは是賊を討滅し
 答ふらるる勿論小いども任重きと妬忌あり市小二虎をな
 むるは功その功をたへ願ふ軍監をもちて進退さくいと希ひ

まるは頼家卿せしむる光仲が遠慮その由あり誰をか言ふ
 程小佩刀小候しを佐味坐内高利頭首とて其ハ姓歳
 蹴鞠の技とて側近く召使と鴻恩微軀小餘とて御用小
 鋭を撃堅と譬斬の埋草とて忠勤を勸む某加北小入
 邦と学窓小臂とて一面の交あり討者ハ謬と賊の爲小槍と
 存亡定る形と聞かれれば某進む賊を撃と死小君の爲小害と
 除死友の爲小怨を復ん公私の情願この舉あり御許容願ひ
 當る人も原是一個の匹夫なり幕府譜第の家臣小あはれ

その軍監とて入る。鎌倉武士へも羞下。三内が所望時宜小協つ。をる
 下。思せらる。廻佐味三内を軍監とて。光仲と俱。陸奥へ遣を
 登。仰出され。光仲廣綱。御教書を賜つ。征伐進退その意。不任
 事。とて。大功を立へ。と再々命せられ。光仲守真。恩命を禀。奉
 上。遠侍。小退。えけり。かくこの日。當坐の老輩。及當番の普侍。まで。
 光仲が。ほろふ。来。く。姓名を告。か。り。慶賀を。速。り。め。雲。海。時。ハ。引。も
 恥。さ。し。けん。光。仲。を。尻。目。小。う。け。く。ま。れ。も。知。ぬ。面。色。ま。さ。れ。ば。光。仲。も。
 鎌倉。小。退。留。の。程。軍。議。公。勢。小。か。づ。ら。ひ。く。執。權。の。邸。小。敷。対。面。と
 請。へ。折。も。時。政。へ。る。外。と。ま。く。款。待。し。く。昔。年。の。ふ。い。ひ。な。ど。又。義。時。ハ
 泰。時。と。光。仲。を。問。慰。め。い。と。懇。切。ゆ。を。管。待。け。り。光。仲。ハ。是。彼。乃。親

疎。小。う。く。と。ま。す。執。權。の。つ。れ。な。り。げ。な。る。へ。その。あ。ろ。察。し。易。し。相。州。時。
 真。實。と。ま。え。た。へ。その。胸。中。揣。く。と。され。ば。此。度。の。大。任。ハ。幸。ひ。小。似。て。却
 危。し。前。司。敷。廣。綱。の。隱。遁。ハ。故。あ。ま。け。り。と。彼。小。就。こ。ま。不。就。ても。毎。古。又。小
 い。ひ。く。お。そ。ま。慎。ま。け。り。是。よ。を。先。小。間。中。集。人。と。台。命。の。越。を。廣。綱。と
 告。ん。と。後。者。を。招。く。武。藏。ま。る。太。田。の。莊。へ。か。り。ま。り。光。仲。ハ。その。日。より。
 佐。味。三。内。が。弟。小。根。ア。そ。軍。兵。を。ま。る。程。小。三。内。ハ。光。仲。の。人。柄。と。景。慕
 と。く。竊。小。已。が。志。を。説。示。し。又。義。邦。の。良。を。も。折。小。觸。て。い。ひ。ひ。出。る。り。
 光。仲。も。豫。て。より。三。内。が。名。ハ。使。つ。ま。づ。その。人。と。ま。る。推。を。る。小。學。問。も
 大。く。ま。る。忠。義。の。仕。使。ま。り。け。ま。渠。が。遊。藝。を。り。く。頼。家。卿。小。仕。ま
 つ。る。その。本。意。小。あ。ら。け。り。と。を。中。猜。し。く。疑。つ。ま。下。野。め。く。あ。り。し。り。
 義。邦。の。う。へ。け。り。廣。光。が。る。朝。夷。が。る。去。年。の。暮。春。の。三。日。の。夜。小。

勝澤の松原ゆく時夏木を防田めくる夏の紛ふ義邦別れ後の
 こころ入る憂難苦樂幸不幸さきくちらる物くこころ内へ義
 邦の薄命を嗟嘆ん。こころ慰む官途に進む。こころ豪傑の圖居む
 得値るを遺憾を限りあり。さきあきこころ此度の軍小後ふと月来の
 素懐小稱了。彼人擒ふをぬとも。さき恙さくあきん小義を
 中々く勇まのやと火急は柵を攻破く再會その期あるべし。頻ふ
 軍兵を催せども名ある武士ハ光仲が下風小立んことを恥てその催促よ
 後ふ十日をさきを麻方程小武藏下総の端武者百五六十騎總に
 参集ひし。今ハ何日まぐ俟死とく光仲馳出陣之時政を告小
 ける。さき頼家卿ハ日ごろの醜醉ゆるきて聊不例あり。これハ再て
 見参ふふ及む。廣元善信奉りて軍用兵糧の下知を傳へる。

日お暇をさき光仲ハ次の日の未明小件の軍兵を招き佐味竺内
 高利と共小鎌倉を辞し去り。その明日の暁昏小太田のサ壯小馬を
 小廣綱も豫てより出陣の準備し。竺内高利小對面一日
 人馬を休めさせ。衆一同小進發と老方の甲乙と。且見姫小隸
 らさく莊院小苗。その他中下河辺加世九ホハさき一郷の
 莊客們も廣綱の徳義を慕う。血氣壯さるめどもハ招されども
 後ふめ。さき二百騎ハ足さきけり出陣の規式苗別の情状ハ説
 ども小想像さき。さき程小光仲廣綱ハ途まが軍兵を催促し。さき
 すまらど日来行く。陸奥の國府小著。さき五百餘騎小さき。

中輯第二十二
 屯成六牛山
 開發鎮守城

三賀進士藏人光仲はるる五百騎小過されども勝負ハ兵の多し少し
 一も速小寄近づく賊の虚實を察んといふ廣綱この後小隨ひて
 馳く國府をうち起つ五百餘騎と二隊小こけく光仲を先鋒まもり
 廣綱の後陣小打せく夜小宿り日小進と賊の大將蘇塗土鶴東二
 刀野時夏ホが楯籠る鎮守府の城は程近れ六角牛山の麓なる
 要害の地は屯せり是より先廣綱ハ諸軍兵小示さすこれ年来
 弓筋を捨く栄枯の際を脱離せり此度の副將たるのハ巳と成
 得ざるの義なる光仲が智計ハ廣綱小過と遠し更小助言よ
 及ぶと渠かのづ武畧ありことゆあり當家相傳の弓筋を既小
 彼人の讓とす経任ハ術ありとも靈弓神箭の徳山五虚から
 んや更皆鎌倉殿のめん為ありかのく一致のらりて軍計を成む

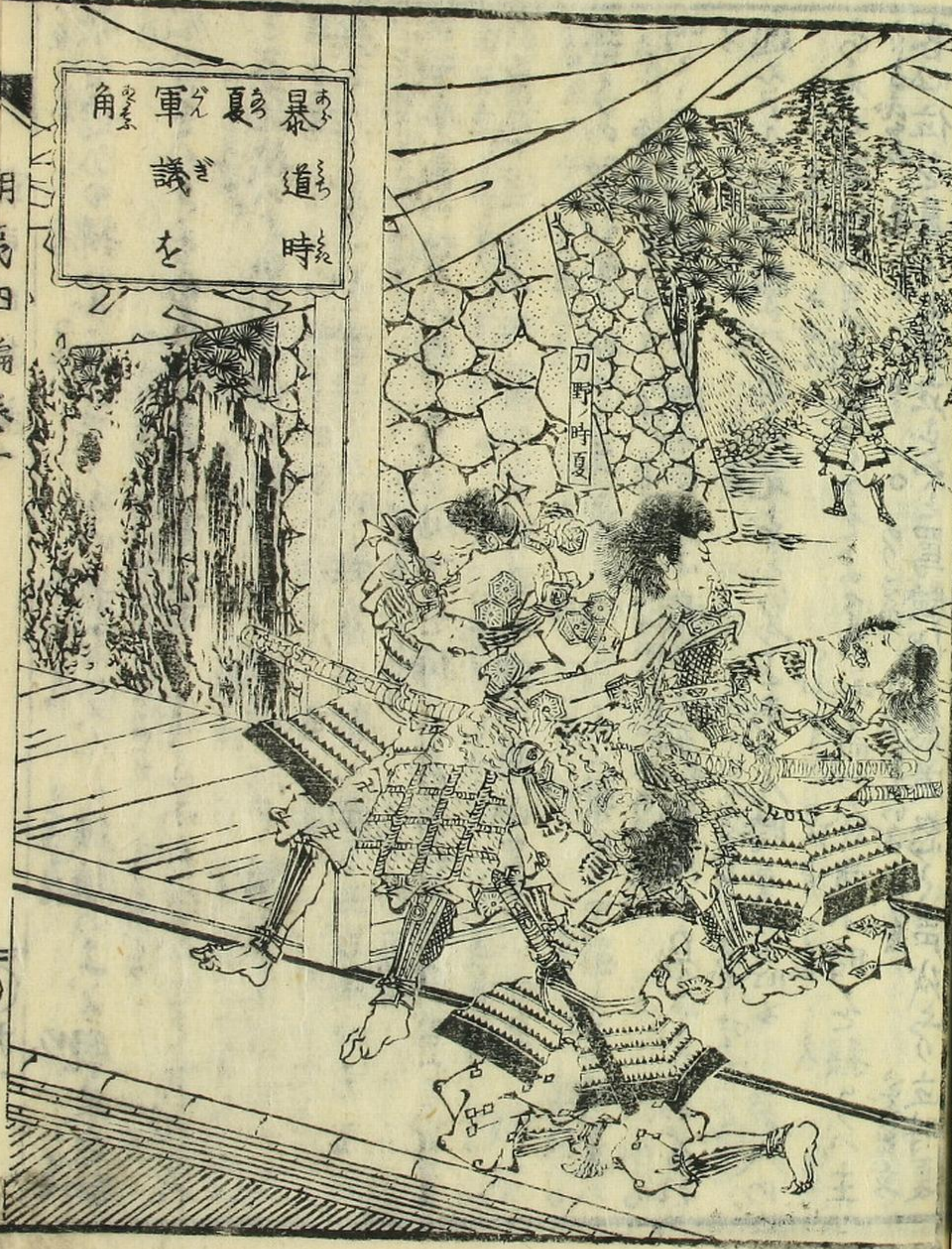
一と説諭しとるが成光仲小任せり。されども光仲ハ自己の才学小誇
 らざ必まが廣綱の旨小より事を行えと欲せし廣綱とめて後ら
 凡大將と爲の賞罰とてその小出づ天子將軍の仰とゆわを
 用ひて牙あり。和漢今昔三軍小將とらめ副將軍の指揮と受と
 更を行ふよりわらん攻伐進退和殿の隨意より廣綱小問ふと
 ちと制とと且を聽とけりこの更の趣を軍兵小傳人ゆめく駿州
 さらかの如く大將不測の軍略ありんといと憑とくおのり。絶く
 悔るものなき小光仲ハるる礼儀を正し士小下り賞罰を明よ
 考とこれを將大とけりけり士率ふる鉄ひく為小死んを樂ひ多されが
 又光仲ハ嚮小鎌倉をもち起く馬を太田へよせし此竊小海老尾加
 世丸小謀を授くといふ。汝ハを中とる利する兵十人をおく馬商の

模様小打扮間道を走く。経任が厨川の柵小赴れ。風いと烈し。死日を
俟く。その兵糧を燻う。追伐の軍兵よ。追つて。経任只その前
御。後成。小等。周。と。説示。加世。丸。果て。
馬高小打扮。諸軍兵。先。陸奥へ。赴。程小
鎮守府。蘇塗。鷄東二。暴道。追討。大将。寄。使。間。謀の
兵を遣。敵の虚実を探。小此度。寄。手。大将。駿河前
司。廣綱。婿。多賀。藏人。先。仲。廣綱。副将。
その勢。絶。小五百騎。過。既。切。如。塞。六角牛
山の麓。屯。告。暴道。馳。騎馬を平
泉。注。進。俄。四門。の。成。を。倍。刀野。時。夏。と
集合。足利。左馬。義。兼。累。世。名家。の上。将。と。数

千騎を。寄。平泉。火攻。只。一。戦。小。利。成。
喪。立。足。も。逃。亡。況。此。度。の。大。将。多。賀。と。先。仲。
と。名。を。使。く。と。只。彼。廣綱。の。類。族。と。
少。も。壽。永。元。暦。の。間。源。平。の。戦。小。の。部。に。如。此。と。や
軍。配。を。定。む。時。夏。の。月。来。暴。道。下。風。小。と。朽。を。く
今。の。軍。議。を。使。と。扇。を。信。と。見。之。鷄。東。二。ぬ。
怯。吾。們。當。城。の。大。将。と。五。百。餘。騎。を。龍。ら。小。間。近。き

暴道時
夏多
軍議
角

用馬石橋第一



韓夷四總卷一



敵を追ひの拂ひ居る。其の箭を受んと後難い。脱走し和
 殿はとまれくわの時夏は當一當く寄る。白沫吐せられん。これ
 と多ん徒は。この後小後つれ。敦固た。論む。早雄の賊
 兵。大々。雷同一。刀野。殿。是。然。敵。由。五。百。騎。味。方。も。五
 百。騎。牛。角。の。勢。ひ。あり。あ。り。あ。り。城。下。を。蹄。り。け。せ。ん。や。誘。め。ん。と。い。ふ。
 寄。り。の。望。む。所。を。枉。く。こ。ろ。意。に。任。せ。れ。し。禁。め。て。申。す。時。夏。は
 呵。く。と。冷。笑。ひ。寄。り。の。既。に。長。途。の。疲。勞。一。不。知。業。内。の。の。み。て。あ。れ
 逸。を。の。つ。勞。を。擊。び。ま。く。克。む。と。い。ふ。と。あ。ん。時。夏。が。志。を。則。衆。人。の
 あり。衆。議。の。聞。小。つ。て。の。益。の。合。議。小。時。を。殺。す。主
 客。必。位。を。易。ん。み。立。む。と。罵。駭。け。り。暴。道。怒。り。告。げ。り。立。時。夏
 傷。若。無。人。と。い。れ。苟。も。當。城。の。大。將。一。已。の。功。を。貪。り。て。軍。令。小。背。く
 の。斬。ら。ん。と。い。ふ。と。戦。ん。と。欲。む。の。い。と。い。ふ。と。制。か。し。
 進。く。敵。を。撃。ん。と。い。ふ。と。亦。一。計。あり。鎮。り。て。使。む。と。い。ふ。と。味。く
 制。し。ま。時。夏。僅。小。氣。成。り。舊。の。席。小。著。よ。け。り。當。下。暴。道。の
 時。夏。亦。ふ。ち。對。ひ。出。敵。を。擊。ん。と。い。ふ。と。意。め。あ。ら。ね。い。衆。望。も
 亦。默。止。ぐ。と。い。ふ。と。太。郎。ハ。二。百。騎。を。招。く。六。角。牛。山。の。屯。を。移。す。敵
 亦。必。弁。候。あ。ん。城。の。運。上。各。任。と。い。ふ。と。屯。を。釋。死。逆。進。して。必。合
 戦。ま。死。る。と。い。ふ。と。輕。く。戦。う。偽。員。と。敵。と。誘。へ。れ。百。餘。騎。を。招。く。
 龍。蛇。茂。林。小。埋。伏。し。その。過。つ。と。後。陣。戎。擊。ん。太。郎。も。一。軍。も。つ。て
 返。り。と。い。ふ。と。扱。く。攻。撃。は。一。戦。必。勝。疑。ひ。す。と。い。ふ。と。敵。も。その。伏。兵。あ。ん
 と。察。し。逃。を。追。ふ。物。は。と。い。ふ。と。城。小。入。り。寄。り。本

敵を追ひの拂ひ居る。其の箭を受んと後難い。脱走し和
 殿はとまれくわの時夏は當一當く寄る。白沫吐せられん。これ
 と多ん徒は。この後小後つれ。敦固た。論む。早雄の賊
 兵。大々。雷同一。刀野。殿。是。然。敵。由。五。百。騎。味。方。も。五
 百。騎。牛。角。の。勢。ひ。あり。あ。り。あ。り。城。下。を。蹄。り。け。せ。ん。や。誘。め。ん。と。い。ふ。
 寄。り。の。望。む。所。を。枉。く。こ。ろ。意。に。任。せ。れ。し。禁。め。て。申。す。時。夏。は
 呵。く。と。冷。笑。ひ。寄。り。の。既。に。長。途。の。疲。勞。一。不。知。業。内。の。の。み。て。あ。れ
 逸。を。の。つ。勞。を。擊。び。ま。く。克。む。と。い。ふ。と。あ。ん。時。夏。が。志。を。則。衆。人。の
 あり。衆。議。の。聞。小。つ。て。の。益。の。合。議。小。時。を。殺。す。主
 客。必。位。を。易。ん。み。立。む。と。罵。駭。け。り。暴。道。怒。り。告。げ。り。立。時。夏
 傷。若。無。人。と。い。れ。苟。も。當。城。の。大。將。一。已。の。功。を。貪。り。て。軍。令。小。背。く
 の。斬。ら。ん。と。い。ふ。と。戦。ん。と。欲。む。の。い。と。い。ふ。と。制。か。し。
 進。く。敵。を。撃。ん。と。い。ふ。と。亦。一。計。あり。鎮。り。て。使。む。と。い。ふ。と。味。く
 制。し。ま。時。夏。僅。小。氣。成。り。舊。の。席。小。著。よ。け。り。當。下。暴。道。の
 時。夏。亦。ふ。ち。對。ひ。出。敵。を。擊。ん。と。い。ふ。と。意。め。あ。ら。ね。い。衆。望。も
 亦。默。止。ぐ。と。い。ふ。と。太。郎。ハ。二。百。騎。を。招。く。六。角。牛。山。の。屯。を。移。す。敵
 亦。必。弁。候。あ。ん。城。の。運。上。各。任。と。い。ふ。と。屯。を。釋。死。逆。進。して。必。合
 戦。ま。死。る。と。い。ふ。と。輕。く。戦。う。偽。員。と。敵。と。誘。へ。れ。百。餘。騎。を。招。く。
 龍。蛇。茂。林。小。埋。伏。し。その。過。つ。と。後。陣。戎。擊。ん。太。郎。も。一。軍。も。つ。て
 返。り。と。い。ふ。と。扱。く。攻。撃。は。一。戦。必。勝。疑。ひ。す。と。い。ふ。と。敵。も。その。伏。兵。あ。ん
 と。察。し。逃。を。追。ふ。物。は。と。い。ふ。と。城。小。入。り。寄。り。本

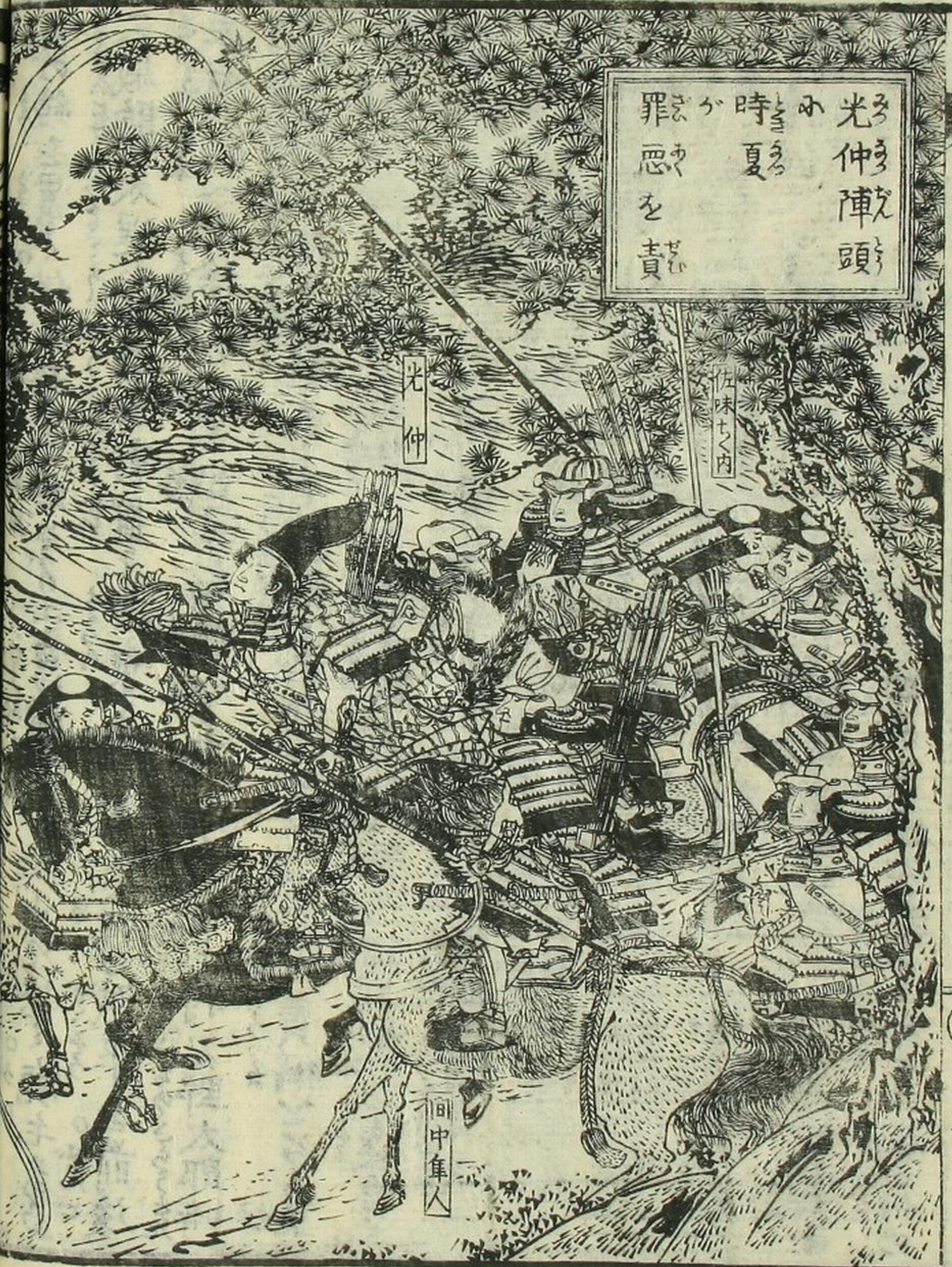
陣小還る比ハ途内より日ハ暮らん。日暮るに百騎をおく。潜敵の
 迹成つ。夜小紛きて風上より火を放て屯を燔ふ備とる。小暇あて
 敵兵必乱と騒がん。太郎ハ又黄昏より。二百騎をおく。城を出通ふ火の
 發るをこらふ。走く六角牛の屯を推寄せ横なる。逃る。後光仲
 廣綱翔あつ。とる。小唾く。擲小走る。べし。時ハ未の下射。出陣既
 その期小協つ。とる。とる。時夏ホハ悦。腰兵糧の準備。の
 俄頃。城の東門より旗を進め。ち。早雄の賊兵二百騎。夏小
 後。六角牛を望み。寄せんと。その。暴道ハ賊兵百人を留て。城を
 守らせ。身ハ百餘騎をおく。潜小西の城戸より。城を去ると。十四五
 町。龍蛇茂林。小埋伏。とる。敵の過るを俟。とる。程小進士。藏人。光仲ハ
 とる。六角牛山の麓。小屯。とる。間諜の兵をおく。賊の動靜。虚実を

窺せ。この日廣綱高利を。守直高吉ホを。聚合。合戦の後を。同
 一。佐味高利。の。某。昨夕。六角牛山。小登りて。小鎮守府。乃
 地形。考へ。在曉の月。は。平泉の。を。眺望。とる。小それ
 とも。猶遠く。東北の。當り。天色。赤。然。昨夕。甲夜。より
 くる。東南の。風。烈。とる。經任。が。平泉の。柵。とる。厨川。小。變。あり。
 路。遠。ければ。否。定。ふ。と。成。知。とる。先。仲。微笑。て。某。も
 亦。これ。を。知。是。則。別。事。小。あ。とる。日。海。老。尾。加。世。九。ホ。と。竊。小。厨
 川。遣。せ。が。渠。ホ。と。彼。知。の。由。とる。兵。糧。を。燔。とる。厨川。乃
 柵。經。任。が。根。城。ハ。武。器。兵。糧。ハ。其。知。小。あ。と。追。伐。の。軍
 兵。む。及。び。根。城。の。兵。糧。燒。亡。せ。經。任。と。疑。恐。て。反。忠。の
 ぬ。あ。と。是。の。賊。と。刃。を。あ。と。その。銳。氣。折。く。あり。

五十名の兵をひく。間道より竊み進み。彼社の後小遠に出賊乃
 先陣敗北せむ。や、彼此火を放て、件の社を燻立し、賊の伏兵
 ありといふも不慮の猛火は遠迷のく。その謀合期せむ。渠は偽の
 敗軍ハ真の敗軍と形をえり。とくといふが、立見高吉のうを
 ひく五十名の兵、その謀を傳へ。準備の火薬成推して志のびく。小
 山下路の捷徑をりてめて、ぞいそがる軍配既小整へ。光仲の二百騎を
 三隊よりけく。佐味高利、中守直木を左右小備へせ、鞆掛練り
 馬衆出せむ。廣綱ハ百五十騎をひて、徐に後陣は續多かく。光仲ハ馬の
 足搔を早め、むくと十餘町より果して前面小賊兵あり。兩軍
 礮と撞見り。間近くるもの、小佐味、内高利ハ馬を陣頭小衆
 進め、あまるとの誰とて、同當下賊將時夏と鏢の上は大荒

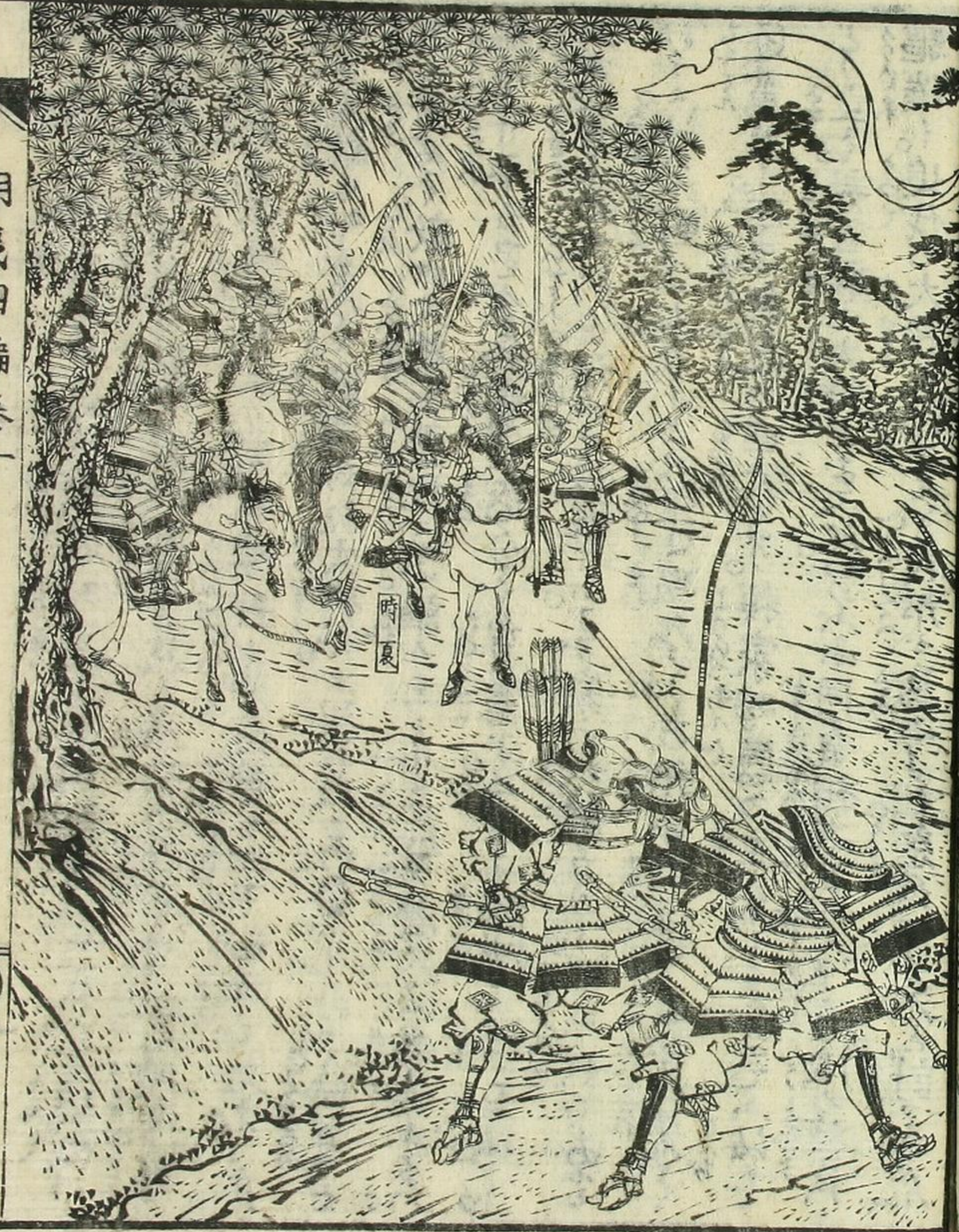
目の鎧を思ひ、備前長刀の劔さる。小菖蒲形より成り、袂と鹿毛ある
 三歳駒の太逞な小雲珠鞍置を打乗する。二十六騎の賊卒を前後
 左右小後へ。徐と進み出さる。鎮守府守衛の上将、刀野太郎時
 夏ハ汝が模様大將小あむ。説諭せむ。あは光仲廣綱とく出
 せと声高かゆを喚り、具く。摠大將光仲ハ辰巳頭小旗を進めて。
 徐小馬を乗居り。これ甚麼なる打扮を但見る。花曇襦の鎧直垂に。
 小櫻威の鎧の尚已時。あは遠間もさく。著下しく銀の磨著の臚當小
 精好の奴袴を張らせ。小鶴とく五尺三寸ありけり。駿馬小遠山形を
 金具小磨る。鞍と置さ。歎冬色の厚總懸く。二十六差と依。大鳥
 羽の征箭前を名高小負する。兎をが士率小のせむ。面とくせん為小
 著む。左の當家相傳の雷上動の弓の真中を握會。右の紫竹の

光仲陣頭
小夏
時
か
罪
悪
を
責



光仲

回中集人



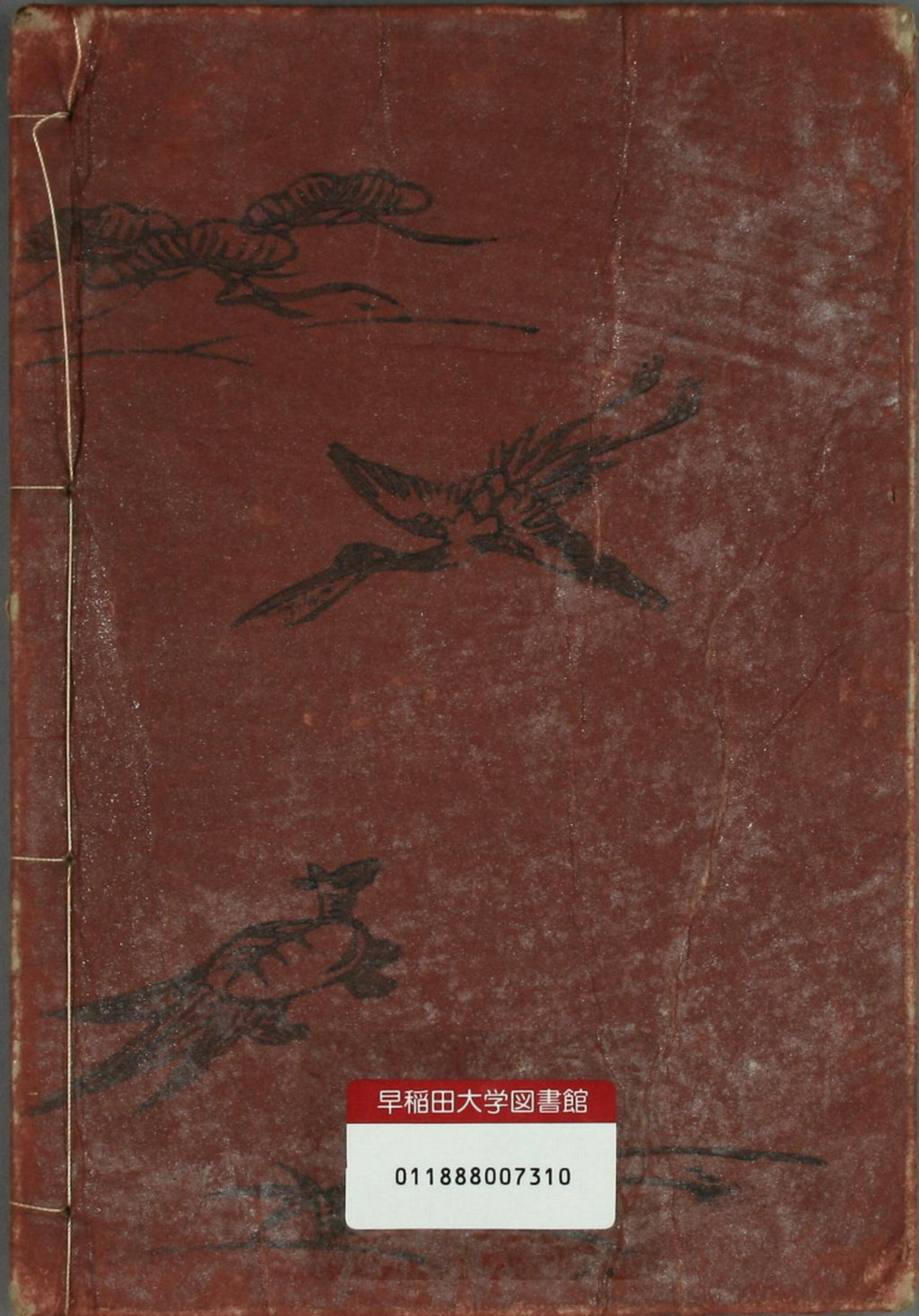
時夏

鞭を揚ぐ。時夏をさう招た賊將時夏とて成知りや。こゝろを追伐の
 總大將後六位上ヨミ賀藏人光仲まれと高申ふ名告する左小間中集
 人あり右小佐味坐内あり威風凜然意氣揚々四下を拂てんえり。久
 御方も敵もかゝるごとく通微妙に大將やとありぬゆめありけり時夏を
 暗を定めく敵の大將を熟視する誰うと見え賀藏人と名告する
 媼子井平あるまゝに驚愕し惑ひく宵塞り怒りふは堪と声を激し。
 此度寄りの大將を何人うと多ひふこゝ家の奴隷あり。井平奴であら
 けり。汝は下野に在り。とれ主と叛えく。義邦小内通く克復せん
 逐電せし不忠無慙の匹夫なり。頼家暗愚の主とてとてとてふ汝を
 とり立ち。数百騎の大將ととて死あひ小同氣相求る。亡命浮浪の徒
 驅催し。追伐の大將と偽りて。義邦が為ゆも怒成復せん。と討るさん。
 及ぶ伎倆之項を洗う。刃を受よと教團通く罵る。光仲慨然と
 うち笑ひ汝は人を不義とく飽まふ罵る。其の勇の不義克復を
 多しむる。曩ふこゝ北條殿の旨小任せく。汝が家小身を寓さるも素
 より正し。主後日あまそその賊情を諫めて遂に邪を祛り正し。就
 天運循環しく。廣綱ぬふ吹拳せむ。鎌倉殿の御家へ。と逆賊追
 討の大將より。汝は是恩に背死徳は恃り。足利左典厩を欺りて。媚と
 経任に徴め。その克復数个條を枚挙する。小違あまど。衆惡とてく
 その身小聚傍。定ふ不赦の大罪人。天罰追々。死を知らぬを脱死。
 以成束縛。縛を受よとて。謹言を時夏とて。汝を殺す。とてく
 怒く。左右をええり。彼生拘とて。下知とて。血氣を謀の賊兵未閑。成
 咄と幾は。箭を射る。鏃と舞。備を乱く。競菟。守直高利二隊は

此度寄りの大將を何人うと多ひふこゝ家の奴隷あり。井平奴であら
 けり。汝は下野に在り。とれ主と叛えく。義邦小内通く克復せん
 逐電せし不忠無慙の匹夫なり。頼家暗愚の主とてとてとてふ汝を
 とり立ち。数百騎の大將ととて死あひ小同氣相求る。亡命浮浪の徒
 驅催し。追伐の大將と偽りて。義邦が為ゆも怒成復せん。と討るさん。
 及ぶ伎倆之項を洗う。刃を受よと教團通く罵る。光仲慨然と
 うち笑ひ汝は人を不義とく飽まふ罵る。其の勇の不義克復を
 多しむる。曩ふこゝ北條殿の旨小任せく。汝が家小身を寓さるも素
 より正し。主後日あまそその賊情を諫めて遂に邪を祛り正し。就
 天運循環しく。廣綱ぬふ吹拳せむ。鎌倉殿の御家へ。と逆賊追
 討の大將より。汝は是恩に背死徳は恃り。足利左典厩を欺りて。媚と
 経任に徴め。その克復数个條を枚挙する。小違あまど。衆惡とてく
 その身小聚傍。定ふ不赦の大罪人。天罰追々。死を知らぬを脱死。
 以成束縛。縛を受よとて。謹言を時夏とて。汝を殺す。とてく
 怒く。左右をええり。彼生拘とて。下知とて。血氣を謀の賊兵未閑。成
 咄と幾は。箭を射る。鏃と舞。備を乱く。競菟。守直高利二隊は

二百騎を魚鱗小備へ鶴翼小搦合せ火水小まれと攻りたる。勢ひ當りたるに賊軍忽地小崩れ靡れ八反あり引退き且戦ひ且まじく敵誘ふと數町あり龍蛇茂林を近つたるこの時日ハたつ没果て天ハ陰霏羅り平日よりも黄昏をかりありし時分ハ時夏ハゆめと霎時踏とまり戦ひのまじ合小及び刃を引く逃走と高利守直馬成飛一達返せと追蒐りかち折し暗號とわがえく奇の陣小一道の烽火閃光ゆる程その色龍蛇茂林乃後のえ下り猛火忽然とりえ出勢のまじ少ハ定るるねど訝小響音く関の声大らも崩る可き草を撲箭を射りけ馳立進む程小時ハ春の季まじ夜ハ烈し山ノ風小衆木一圓猛火小燒まじ谷ハ春の明りけまじ小隱と敵待の蘇塗暴道大ハ駭れ敵遺す

過ぎ小暇まじ百騎の賊兵侶共小處を樹蔭をわが高利のよは成りたるに大將の推察又毫違り賊の伏兵見れり彼引包で撃つ田よとまじく進む戦ふはふ又茂林の中より下河邊高吉ハ五十名の士卒と由小煙を犯し途次横断す搦とけまじ時夏暴道辟易とく彼ひと小辟とり前後の敵を防ぐと路を求めて脱んと當下光仲摩うち揮り軍ハ十分勝とゆぞかれくと下知小將火を勇將の下小弱率あるは衆先を争うと奮撃突戦せざるゆは廣綱も又後陣を進めく三方より搦合せ漏れまじと難立依り列ハ戦ひ小賊兵の度を失ひと或ハ騎馬小踏殺と或ハ已が大刀長刀小辟れと刃成脱るめハ煙と噓と燄と燒まじ屍ハ累々とく岳の如く血を



早稲田大学図書館

011888007310